

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立玉島商業高等学校
実践場面	岡山空港における多言語防災圧縮タオルの実証フィールドワーク
実践日時（時期）	令和8年3月16日(月) ※3月3日(火) 打合せ会
対象生徒（学年）	ビジネス情報科：探究グループ
連携の形態	■その他（産学連携コーディネーター） 岡山空港ターミナル(株)・空路利用を促進する会コーディネーター
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターソッフ® <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 ■その他

実践の内容

【内容】

- 防災教育と探究的な学びの一環で開発した、多言語防災圧縮タオル（コミュニケーションタオル）の有効性を検証するため、岡山桃太郎空港において訪日外国人利用者を対象とした実証実験およびフィールドワークを実施した。
- 災害による停電や通信障害を想定したオフライン環境下で、タオルに印字された多言語テキストによる意思疎通の正確性を対面形式のヒアリングで確認した。



【経緯】

- 地域の避難訓練等の活動を通じ、外国人住民や観光客の「言葉の壁」を喫緊の課題として捉え、非常時の避難生活における衛生上の必需品である「タオル」に防災コミュニケーション機能を付加し、企業と試作を重ねてきた。



【フィールドワーク内容】

- ・直感的な理解度および文化圏による認識差の調査
- ・外国人観光客の防災意識と「指差し確認シート」としてのニーズ調査
- ・「トイレ」「避難所」「食事」等、掲載フレーズの翻訳や安全意識の確認



【産学連携コーディネーターのサポート】

「空路利用を促進する会コーディネーター」と連携し、岡山空港ターミナル（株）へ学校の要望であった使用許諾を依頼した。これにより、県内の国際拠点である岡山空港でのフィールドワークが実現し、多国籍の利用者から直接意見を聴取する実践的な学びの場が確保された。



実践による効果等

- 生徒は、自ら開発した製品「多言語防災圧縮タオル（コミュニケーションタオル）」が実際の現場でどのように機能するかを客観的に評価し、探究課題を深化させる貴重な機会となった。
- 活動後、生徒は、「翻訳機を使っても言語が違くと難しかったが、実際に見たり読んだりしてもらうことで伝わり、自分たちの制作したものが役立つと実感できた」という手応えの一方で、「一目見て圧縮タオルだとわかるようにする工夫が必要」など、実用化に向けた具体的な改善点にも気づくことができた。